



宮司プレス 第百八十八号

彦島八幡宮 宮司ニユース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫
発行 令和四年六月十日

◇宮司の柴田です。 御神殿(ごしんでん)の北側に、紫陽花(あじさい)の花が咲き始めました。 色が変化してゆく紫陽花は、別名「七変化(しちへんげ)」とも呼ばれます。 宮司プレスの既刊号(きかんごう)、昨年六月に発行した第百七十一号と第百七十二号に、紫陽花について詳述(しょうじゆつ)しましたが、ギリシヤ語では、「水の器」という意味を持ち、水がよく似合う花でもあります。 二十四節気(にじゅうしせつき)では、明日が入梅(にゅうばい)でありまして、いよいよ梅雨(つゆ)に入る季節が近づいてまいりました。 正岡子規(まさおか しき)さんは、「紫陽花や 昨日(きのう)の誠 今日(けふ)の嘘(うそ)」と二句(いっく)詠(よ)まれていまして、移ろいやすい人の心を紫陽花に喩(たと)えていらっしやいます。

◇その正岡子規さんは、結核を患い、永いこと自宅で臥(ふ)せっておられました。 宮司プレスの第百五十二号にも記述(きじゆつ)しましたが、「病牀六尺(びようじょうろくしゃく)に、「悟(さと)りという事は如何(いか)なる場合にも平気で死ぬる事かと思っていたの

も平気で生きている事であった」と書かれています。 コロナ禍(た)になって三年目、社会的秩序を保ちつつ、「生活変容(せいかつへんよう)」を受け入れながらも、「平気で生きていく事」の大切さを痛感(いたん)させられている毎日です。

◇人は、他者(たしや)と密接(みせつ)に接触(せつしよく)する環境(けいけい)の中で進化(しんか)してきた生物(せいぶつ)なのだそうです。 しかしながら、コロナ禍(た)は、「動く自由(じゆう)」「集まる自由(じゅうまるじゆう)」「語る自由(かたるじゆう)」を制限(せいげん)しています。 さらに、「ともに集まる」共生(きせい)の場(ば)を失(な)い、「他人(たにん)の体(てい)は命(いのち)を脅(おびや)かすリスク」という認識(にんしき)は、他者(た)との接触(せつしよく)を拒(こ)み出(だ)しました。 そして、そのことが、「つながり」を失(な)うリスクとな(な)っているのではないでしょう(か)。

◇総合地球環境学研究所(そうごうちきゅうけいけい)の山極(やまぎわ)所長(じやう)によりますと、「縁(えん)」には三(さん)つあるそうです。 「地縁(ちえん)」、「ふるさと」、「麗(うるわ)しい故郷(こきやう)(ふるさと)の古語(こご)」(こご)でもある「まほろば」です。「血縁(けつえん)」、「家族(かぞ)とのつながりのことです。 さ

らに、「社縁(しゃえん)」、これは、勤務先(きむつ)である事業所(じぎやうじよ)、「仕事(しごと)とのつながりのことです。 これから、梅雨(つゆ)の時期(じき)」、さらに酷暑(こくしよ)が予想(よす)される夏(なつ)を迎(むか)えます。 その夏の疫病(えきびやう)「退散(たいさん)を願(ねが)ったのが、「水無月(みなづき)の大祓(おほはらい)」、さらに「夏越祭(なごしさい)」であります。 そのような御先祖様(みおやぢさま)から受け継(つぎ)がれた伝統的(でんとうてき)神事(かみぎ)を、コロナ禍(た)という疫病(えきびやう)のせい(せい)で、省略(しょうりやく)「除(のぞ)かざるをえなくなりました。 忸怩(じくじ)たる思いの日々(ひび)でしたが、そろそろ、「もとほる」、元(もと)のお祭り(まつり)にしていかなねばなりません。 そして、三(さん)つの縁(えん)のつながりを深(ふか)め、運命(うんめい)共同体(くたいたい)としての地域社会(ちいきうかい)を構築(こうちく)していかねばならないのではないでしょう(か)。

◇今(いま)、日本(にっぽん)は、「令和(れいわ)の黒船来襲(くろふねらいしゅう)」、といわれています。 幕末(まくま)、「ペリー来航(らいかう)」に際(き)し、江戸(えど)周辺の海防(かいぼう)が手薄(てうす)なのを憂慮(ゆうりよ)した吉田松陰(よした しょういん) 先生(せんせい)は、萩藩主(はぎはんしゆ)の毛利敬親公(もうり たかちかこう)に「将及私言(しようききん)を提出(ていしゆ)された」という提言書(ていげんじよ)を提出(ていしゆ)されました。 その提言書(ていげんじよ)には、「誠(まこと)には三(さん)つあり」と述べられていまして、「二(に)に曰(い)く実(じつ)なり 二(に)に曰(い)く一(いつ)なり」

り「三にいわく久(きゆう)なり」と書かれて
いるのです。「実」は、中身のこと、「一」は優
先順位を明確(めいかく)にして集中(しゆう
ちゆう)すること、「久」は、間断(かんだん)
なく持続(じぞく)することです。私共は、
明き清き誠の心を神様に捧げなければなりま
せんが、お祭りの「中身」を大切に、今、何を
為(な)すべきかに特化(とつか)して、継続
(けいぞく)しなければなりません。それは、
まさしく、「祭典の厳修(さいてんのげんしゅ
う)」にほかなりません。襟(えり)を正して、
「三縁(さんえん)」の絆(きずな)を深める祭
典の厳修、さらにその「祭典」の「もとほる」
復元(ふくげん)、継承(けいしょう)につとめ
てまいる所存です。御自愛をお祈り申し上げま
す。

◇五月の祭典行事報告

- ▼月次祭 *五月一日、十五日
- ▼貴布禰神社月次祭 *五月一日
- ▼塩釜神社例祭 *五月三日
- ▼衣替 *五月五日(立夏)
- ▼福浦金刀比羅宮例祭 *五月十五日
- ▼国土平安祈願祭 *五月十五日
- * 沖繩本土復帰五十年を期しての平和祈願祭を齎行

▼朝粥会 *五月二十一日

◇五月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

- 奉賛会会計監査 *五月十六日
- 奉賛会役員会 *五月二十日
- 敬神婦人会総会 *五月二十九日
- ▼山口県神社庁関係
- 教化部正副部長会議 *五月十三日
- 教化委員会、役員会 *五月十七日
- 中国地区祭典後講話研修会
- * 五月十八日、十九日

□岩国支部総会に庁長代理として出席

* 五月二十七日

▼自治会、学校関係、その他

- 西山小あいさつ運動 *五月十日
- 彦まち協議会歴史部会 *五月十一日
- 玄洋中CS *五月十六日
- 下関中央倫理法人会MS(会館にて開催)
- * 五月十二日

▼教誨活動(美祢社会復帰促進センター)

- 集合教誨(女子)*五月九日
- ▼講演活動

□神社庁岩国支部 *五月二十七日

◇六月の祭典行事報告(予定も含む)

- ▼月次祭 *六月一日、十五日
- ▼貴布禰神社月次祭 *六月一日
- ▼恵美須神社(海士郷町)例祭 *六月十日
- ▼貴布祢稻荷神社(老町)例祭 *六月十一日

▼朝粥会 *六月二十一日

▼大祓式 *六月三十日

◇六月の宮司動静報告(予定も含む)

▼彦島八幡宮関係団体

- 維蘇志会奉仕作業 *六月十二日
- 山口県敬神婦人連合会総会
- * 六月十三日

* 六月十三日

□奉賛会総会 *六月二十五日

□奉賛会奉仕作業 *六月二十九日

▼山口県神社庁関係

- 教化部代表者会議 *六月二日
- 神職大会 *六月三日

□初任神職研修「神社本庁史」講義

* 六月二十四日

□山口県八幡宮会役員会

* 六月二十六日

▼自治会、学校関係、その他

- 自治会クリーン作戦 *六月十二日
- 自治会役員会 *六月十五日
- 下関中央倫理法人会MS(会館にて開催)
- * 六月九日、十六日、二十三日、三十日
- 西山小挨拶運動 *六月十日
- 社会福祉法人松美会評議員会
- 社会福祉法人あーす評議員会
- * 六月二十一日

▼講演活動

□山口県敬神婦人連合会 *六月十三日